

綾野まつり

あやの

とき 令和6年 10月12日(土) 13:00~21:00
雨天中止

ところ 綾野白髭神社を中心に綾野地内一円

綾野まつり

大垣市の綾野には、江戸時代末期より伝わる5両の曳軸があり、豊作に感謝し綾野白髭神社の祭礼に奉納される。明治29年の大水害までは、9月26日に行われていたが明治30年からは10月12日に行われるようになった。平成11年からは、暫定的に10月第2日曜日に行っていたが、氏子の強い要望により、平成18年度から10月第2土曜日に行われることになった。

【巡行スケジュール】

- 13:00 各軸蔵を出発(綾野地内を巡行)
- 15:00 綾野白髭神社手前、新幹線下に集合
- 15:30 綾野白髭神社に奉芸
奉芸後置き軸

【宵舳祭(綾野白髭神社)】

- 19:00 提灯点灯
- 19:30 奉芸
- 21:00 曳きわかれ

※天候によって巡行時間、宵舳祭の時間が変更となります。雨天の場合は、軸の巡行が中止となります。



神楽舳[東瀬古]

軸の帳面箱に「文政七申歳 東瀬古惣連中」とあり、文政7年(1824年)にはすでに軸が造られていたとされています。神楽軸は「一軸」とも呼ばれ、常に行列の先頭を行います。このからくりは、人が直接棒で操り、横笛・太鼓・小太鼓・鉦鼓に合わせて、青装束の巫女と白装束の山伏が舞います。



獅子舳[八幡瀬古]

軸を納める箱に「宝暦七丁丑四月吉日 傳馬町」とあり、宝暦7年(1757年)に大垣市伝馬町で建造又は改造されていたとされています。獅子舳の芸は、元は獅子に「どっけ」と称する道化が載れる様子を面白く演じたり、鳥さしの歌という数え歌に合わせて、子供が舞っていました。現在は12歳から15歳の子供による獅子舞と6歳から10歳の子供による舞踊が行われています。



小獅子舳[豎丁瀬古]

屋根の袖板に「嘉永六年八月四日 大工喜重郎 濃州不破郡綾野村豎町」とあり、嘉永6年(1853年)には軸が存在していたとされています。小獅子舳の芸は、19本の紐を使って操作され、若者から変じた小獅子が自分の体毛についた虫から身を守るため、牡丹の花から滴り落ちる露にあたろうと、多彩な動きを見せています。



猩々舳[大門瀬古]

軸上後方の勾欄下に「于時文政五壬午年七月下旬 岩井保信」とあり、文政5年(1822年)にはすでに軸が造られていたとされています。猩々舳は、糸からくり軸で、猩々人形とその前に竹製の酒樽が置かれ、猩々が酒を飲むと顔の仕掛けが回り、朱色の顔の猩々が現れます。猩々人形・幣振り人形は七代目玉屋庄兵衛の作です。



鯨舳[横丁瀬古]

水引の裏地に「宝暦九己卯八月五日 綾野村横丁」とあり、宝暦9年(1759年)には軸が存在していたとされています。鯨舳の芸は、軸の前に突き出した板の上で、赤頭巾をかぶり瓢箪を持った老人が、大鯨を押さえようとするところをおもしろおかしく見せています。見送り幕は、守屋多々志画伯の作品です。

